



【自衛艦隊司令官挨拶】

海将 山下 万喜



昨年12月に第49代自衛艦隊司令官を拝命しました山下です。

横須賀水交會の皆様には常日頃から温かな御支援御高配を賜り、自衛艦隊を代表し厚く御礼を申し上げます。この度は、皆様にご挨拶する機会を頂きましたので、海上自衛隊の活動について日頃から考えていることとの一端を申し上げたいと思います。我が国は四面を海洋に囲まれており、豊かな海洋資源や海上交通を通じた貿易などの利益、あるいは他国

からの侵攻といった脅威は、全て海からやってまいります。そのため、我が国の生存と繁栄は、海洋の安定と自由な利用にかかっており、我が国にとって海洋は正に生命線といえます。この海洋の安定と自由な利用を確保することが、我々自衛艦隊に課せられた大きな使命であり、それは他国からの侵略や国際テロ組織からの攻撃、海賊行為ならびに自然災害などの多種多様な脅威に対し備えることであると認識しております。そこで脅威に備えるためには、そもそも「脅威」とは何かという問いに答える必要があります。諸説いろいろありますが、「脅威」は「能力」×「意図」と表現するのが最も理解が得やすいのではと考えます。例えば、警察官は拳銃（「能力」）を保持しておりますが、一般市民に対し危害を与える「意図」を持たないため、「脅威」とはなりません。一方で、強盗あるいは「意図」の不明な不審

発行 平成29年4月12日
編集 横須賀水交會事務局

者が銃器（「能力」）を持った場合は、一般市民に対する大きな「脅威」となります。このような考え方の中で、我々自衛隊は国家レベルの「脅威」に対応することが求められています。

それでは、我々自衛隊は多種多様な脅威をどのように低減することができのでしょうか。「脅威」が「能力」×「意図」であるならば、その双方に、若しくはいずれかを低減すべく働きかけを行い、「能力」と「意図」の掛け算の結果として「脅威」自体の低減を図ることができます。

「能力」への働きかけの代表例は相手の軍事力を奪うこと、すなわち武力の行使であります。それは最も回避すべきことであり、望ましい対応ではありません。それよりも、相手の「意図」を自らの脅威として顕在化させないことに最も意を払うべきであります。そのための方策が「抑止」や「関与」であり、平素における自衛隊の崇高な任務だと考えます。

(次頁に続く)

横須賀水交會主要行事予定

平成29年10月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會ホームページ(<http://y-suikoukai.daa.jp/>)で御確認下さい。

1 練習艦隊入港歓迎行事

(1) 期日 5月13日(土)

(2) 場所 横須賀逸見岸壁

2 馬門山海軍墓地墓前祭

(1) 期日 5月14日(日)

(2) 場所 馬門山海軍墓地

3 海軍の碑記念行事

(1) 期日 5月27日(土)

(2) 場所 ヴェルニー公園

4 第34回ゴルフコンペ

(1) 期日 6月9日(金)

(2) 場所 鹿野山ゴルフ倶楽部

5 靖国神社月例参拝等

(1) 期日 6月15日(木)

(2) 場所 靖国神社

6 27年度総会・講演会・懇親会

(1) 期日 6月16日(金)

(2) 場所 よこすか平安閣

7 横須賀夏期防衛講座

(1) 期日 計画中

(2) 場所 計画中

「ここで言う「抑止」とは、自らが「精強・即応」を維持し、それを内外に示すことで相手の「意図」を思い止まらせることです。また、「関与」とは、「各種対話」や「外交的手段」等をもって相手の「意図」を変更させその低減を図ることです。特に、海上自衛隊の艦艇は、国際法上認められた特権を有効に活用することができず。一般的に海軍力は、国家の主権を象徴するものであり、豊かな国際性を有しております。これは、陸・空軍力よりも有効に「関与」できる原動力となります。つまり、海上自衛隊はこの国際性を背景とした外交的機能を有しており、国際安全保障環境の改善・構築に積極的に「関与」することができず。

私は、海上自衛隊の二枚看板である「精強」と「即応」に「常在」を加え勤務方針としています。我が国を取り巻く様々な脅威を顕在化させないための戦いは今この瞬間にも続いており、隊員に対し「常に戦っている」との意識を持たせています。それは、弾を撃ち合い、血の流れる凄惨な戦争を手段としない戦いであ

り、平和な社会を創り出すという最も価値のある戦いであります。

最後になりましたが、自衛艦隊の隊員が日夜を問わず任務に邁進するとともに、有事に備え訓練精到であるためには、横須賀水交会をはじめとする地域の方々の御理解、御支援が不可欠であると考えております。引き続き隊員のみならず、その家族への支援も含め海上自衛隊にお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、横須賀水交会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝、御多幸を祈念申し上げます、御挨拶とさせていただきます。



【投稿】

「横須賀造修補給所について」

横須賀造修補給所長

1等海佐 川原 梅三郎



横須賀造修補給所は、横須賀在籍の護衛艦等、艦艇約30隻の維持整備及び艦艇部隊・陸上部隊への物品等の補給を大きな任務の柱としています。

横須賀の特色として、海外へ派遣される艦艇部隊に対する造修補給支援を一手に引き受けている事、また、全国の造修補給所の中で唯一消磁所を有しており、艦艇の船体磁気の除去を実施している事、そして、記念艦「みかさ」の維持整備を実施している事があげられます。

第一の柱である艦艇の維持整備については、これまで以上に厳しい予算環境ではありますが、艦の運行に支障を与えないように、定期的な

オーバーホールである定期検査、年次検査を整齊と実施している他、洋上で不具合が発生した際、造修補給所の監督官が衛星電話等を用い、民間技師の支援を得て、艦艇と直接故障探求等を行う「遠隔技術支援」を国内外を問わず実施し、故障が早期復旧するよう、24時間体制で対応しています。

第二の柱である部隊への補給業務については、艦船・武器部品の保管及び艦艇への輸送の他、艦艇の主燃料及び搭載ヘリコプターの燃料搭載、米・肉・魚・野菜などの糧食の補給、制服等の配布、その他、日常生活で使用する生活必需品の調達・補給など、艦艇及び陸上部隊の任務遂行に必要な物資の補給を一元的に実施しています。

造修補給所の現員は約360名であり、横須賀地区においては大きな組織ではありますが、その業務量を考えると、人員が多いからと言って安穩としていられない状況です。

昨今の予算状況、定員の充足状況等を省みますと、その内情は火の車であると言っても過言ではありません。「当たり前の事を当たり前に

やる。」という事が如何に難しいことか、ひしひしと感じます。

海賊対処行動等の実任務、日米・日豪・日印等、多国間共同訓練の深化等により、艦艇の海外派遣が常態化している現状では、洋上における故障対応、海外における燃料補給・物品の輸送等は、これまで以上に迅速さが要求されます。

このような中、造修補給所の隊員は昼夜残業も厭わず、献身的な努力で業務に当たっています。しかし、我々の整備・補給能力には限界があり、民間会社に、その大部分を依存せざるを得ません。

そのためにも、造修補給所の任務にご理解を頂き、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「平成10年の年賀状から」

佐野恭子



「明けましておめでとう。10月、アメリカをNYでは「ナイトライフ」を、ワシントンでは「権力」をテーマに旅しました。ワシントンは紅葉した樹々の中の小さな街です。ホワイトハウス・ペンタゴン(国防総省)内部を、ツアーで見学しました。FBIは逸しましたがキャピトルヒル(国会議事堂)も好きなように見学でき、納税者あつてこそその政府と言う座標軸を感じました。NASAや国連もそうでしたがアメリカの公施設に行くと、人これ平等という建前が潔くどこも質素でピューリタンによる建国の理念を感じます。夕暮れのアーリントン(無名戦士者墓地)は絵のように美しく静かで私は私たちの水漬く屍と、自分の息子を思い涙しました。遠くホワイトハウスの出入りするヘリコプターの

慌ただしさ、ひっきりなしの飛行機が、権力の中枢にいることを思わせます。」18年前50歳の私が一人旅した秋の米国東部の記録だ。NYは米国の中心ではなくウォールストリートは金融の中心、実体的ない数字でしかない。ブロードウェイで「屋根の上のヴァイオリン弾き」「キャッツ」などをTKS(チケッツ、その日の切符を中心に売る)で買って見たけれど私には絵空事ではなかった。苦勞して見て回ったワシントンはそれは見事な一つの世界で「納税者あつての米国、民衆の、民衆に拠る、民衆の為の・・・」というリンカーンの南北戦争のゲティスバーグの宣言通り清廉だった。ホワイトハウスは「木造の家」だ。ヨーロッパの権力は石造りで、植民地からの富を結晶させた豪華な金のシヤンデリアが廊下から勝手口まで溢れ分厚い絨毯が白御影の廊下を覆っている筈。ホワイトハウスは大きく、実用的な厚手のカーテンがシンプルなお窓の大きい窓に掛かっている。床は木作り。キャピトルヒルには、モルタルペンキ塗りの壁があり、上院議員もセメント作りの階

段を上って来る。政治家は金とは別の世界にいるんだ・・・リンカーンのように！と言う彼らの意思を感じる。ピューリタンの歴史的信念は大統領就任時に聖書に手を置いて宣言する形に結晶していると思う。簡素さ。アーリントンの「ジョン・F・ケネディ」の墓を見た。夕暮れ、3畳ほどの目立たない石畳の真ん中に小さな炎がひっそりと揺れていた。南北戦争の南軍リー將軍の廟の方が立派だ。静かな、静謐と言う言葉そのものの墓地は埋葬された兵士の名前がセメントの墓碑に書いてある。息子が埋葬されているらしい夫妻は涙にくれる妻を夫が庇って歩いていた。近くにベトナム戦争戦没者墓地があり、3人の米兵が互いに尻をくっつけ合って立っている像を見つけた。男同士は、体の一部をくっつけて立たない。写真を撮る時など女同士は「身を寄せあう」が、男同士は体が他者に触れることを好まない。心理学で言う「自己テリトリー」だ。この像に見られる3人の米兵は非常な不安にある・・・と、隣にいた見学者にいうと彼は頷いて「ベトナム戦争の戦死者はこのよ

うに全員の名前が刻まれている。けれども南北戦争の戦死者は遙かに多くて、名前を刻んだら何マイルにもなるんだ」



ワシントンにはタクシーしかない。それも相乗りが基本で見ず知らずの他人と同乗してそれぞれの料金を全く独立で請求する。何人も米国では珍しい背広の男たちにこの点を聞くと「自分も全くわからないが、料金でインチキと感じたことは一度もない」パキスタン人の運転手に一度聞いたところ反対に「あなたは日本人だろ、解るよ、何回か頭を下げてお札をしているのを見ていたから。パキスタンもそうなんだ。いま？ 札押を終えて出てきたところであなただを載せた。日に何回と札押の時間を確保する契約だからね」

泊まっていたホテルのダイナーは高価でフォギーボトムと言う小さい店のあたりで御飯にした。米国でレストランのファミリーを見るのは面白い。それは「男女同権、機会均等、就職平等、誰もが競争・・・」の結果、ファミリーとして機能するのが難しくなっている現場だ。父がいて母がいて、子供たちが興奮して喜んでい・・・と言うことがまず、ない。父と娘でテーブルクロスの掛ったレストランで、と言う事は何かの記念日なのに会話がな。娘がずーっとスマホを見ていて、料理が来る、と言うのも近年の米国では珍しくない。ワシントンのレストランで会った夫2人が兄弟と言う家族はワシントンに医療器具の見本市に出展しに来たという。インテリで野心家の医療関係者とよく飛行機で隣になったが、米国の医療費の高さは、私から言えば天文学的数字だ。翌日、彼らとペンタゴンに行った。ペンタゴンの見学！ 20人ほどをひとまとめにして190cm×2mある巨大な女性が全行程を後ろ向きにずんずん歩き説明をする。「部屋のドアが開いていても写真を撮れ

ばフィルムは抜き取ります。」この辺も公平で、ドイツの将校たちがやはり20名くらい胸にわんさかと華やかな略綬を飾って、同じ扱いを受けていた。次何処に行こう、とリンカーンの暗殺現場写真や彼が至近距離からの頭部貫通銃創のため死までの時間を苦しんだ本場に小さなベッド、関わった女性までが紙袋を頭にかぶせられて高々と吊るされた処刑写真を見た。その後一人の世界銀行に行った。「金融権力、その名も世界銀行だけは権威が目で見える形になっていました。巨大な美しいビル群は発展途上国人達の汗の結晶と言うにはあまりにも華麗すぎ、利息の恐ろしさを実感できます」ファサード278mの巨大な銀行は当時でも警備が厳しく、しかし曲がり角まで来ると、「反感を買う楽しみ」だろう、しゃれた小部屋の黒の壁紙をバックに100本ほどチューリップが活けてあり、その前にはSTEMの長いワイングラスも三角形に100個は伏せてある。どんな融資の話をするのか。気取った韓国人の若い男女が出てきたので「融資を依頼するのか」「マクナ

マラ総裁は記憶力が・・・」「ふん、そんな昔のこと言ってさ」と言い捨てて彼ら韓国エリートは足早になくなった。歩道はぶつきらぼうな擦り切れたコンクリ打ち、ただしNYなら、そのコンクリは確実に大きな割れ目が入った凸凹だ。「12月ジャカルタに行きました。ヤシの林の中、濁った川で少女が洗濯をし、やせた鶏をびっこの犬が守ります。痩せた漁夫が投網を打ちます。潮が満ちる頃、一家で水牛を洗いに来た家族があり、幼い少年が牛の背から何度も宙返りをして水に飛び込みました。幸せそうでした。」正確には「どうか、この先、工業化が進み、廃液が流されないよう、この8頭の水牛が全財産であるこの家族が将来も幸せに潮の満ちる時、ここに来られるよう・・・」と私は心から祈ったのだった。



「横須賀市政報告」

市議会議員・幹事 木下 憲司



横須賀市政からトピックスをいくつか報告します。

① 軍艦陸奥主砲里帰り記念式典

3月25日、戦艦陸奥主砲里帰り記念式典が盛大に執り行われました。陸奥主砲の里帰り運動は、平成25年5月に、運動の母体である「陸奥の会」が設立され、その後署名活動、募金活動を経て、お台場「船の科学館」からの移設工事が行われ、このたび工事が完了し、記念式典に至りました。この里帰り運動に携わった数多くの人々のご協力、特に「陸奥の会」の方々のご努力に心より敬意を表します。昨年春には、本市は「日本近代化の躍動を体感できるまち」として日本遺産の認定を受けました。陸奥の主砲の里帰りは、時機を得た

ものであり、本市の歴史を物語るモニュメントとして多くの市民や来訪者に親しまれるものと願っています。



② 津久井浜海岸でウインドサーフィンW杯開催

5月11日〜16日、津久井浜海岸でウインドサーフィンW杯が開催されます。このW杯は、PWA（プロフェッショナル・ウインドサーファーズ協会）公認のワールドツアーで、欧州を中心に10カ国程度でワールドツアーを開催しているものを、本年、日本・横須賀に誘致したものです。日本・横須賀市・ANA・京急電鉄・日本ウインドサーフィン協会（JWA）が実行委員会を組んでの開催です。三浦半島・津久井浜は風向の安

定性など、ウインドサーフィンの適地とされています。本市におけるマリンスポーツの普及促進や横須賀三浦半島地域の活性化が図られるものと期待します。



【参加行事等紹介】

1 平成28年度部隊研修

平成28年10月6日(水)台風一過のためか夏のような日差しの中、横須賀水交会平成28年度部隊研修を横須賀市田浦地区にある潜水医学実験隊（以下、「潜医隊」という）、第2術科学校（以下、「2術校」という）の海軍機関術参考資料室及び同校海上自衛隊創設史料室において行われました。参加者は約80名であり、その内約20名は、横須賀水交会の有志会員でした。

部隊研修開始前、中尾横須賀水交会会長、副会長、幹事長は、今回お世話になる堀義晴2術校副校長、そ

して徳永徹二潜医隊司令ところに、表敬訪問し、本研修のお礼を述べました。

潜医隊講堂において、潜医隊司令からの御挨拶と緊急救命行為についての説明を頂きました。

次に潜医隊実験第1部長から「潜医隊の概要」、「潜水環境の特殊性」、「業務の概要と主要施設」について詳しく説明を頂きました。

潜医隊は、医学、生理学、心理学、人間工学に関する様々な問題を解決するための研究を通して、潜水艦乗員及び潜水員の健康を促進するとともにそれらの業務における安全性の確保に貢献し、更に飽和潜水員及び潜水医官の要員養成も行っています。



施設研修等は、事前に決められていたグループに分かれ、潜医隊及び2術校の施設等を研修しました。潜医隊の施設研修は、平成24年9月に久里浜から移転しており、施設はどれも新しいものでした。

「深海潜水訓練装置」は、減圧装置(居住区画)・準備区画・水槽からなり、研修当日は、移転後初めての深度450メートル飽和潜水訓練が無事終了したばかりでした。「高気圧酸素治療装置」は、潜水病や各種適応疾患(突発性難聴等)に対する治療を行っており、掃海艇から潜医隊の治療装置まで治療を継続したまま患者を移送できるそうです。「訓練水槽」は、深さ10メートルあり、基礎的潜水法の訓練、潜水器具の実用試験、潜水に関する医学的、人間工学的の研究に使用しているそうです。



2術校の研修は、次の2か所でした。

「海軍機関術参考資料室」は、海軍機関学校記念事業の一環として、2術校に設置されたもので、東郷元帥の書、桜の印が入った旧海軍燃料(塊炭)、芥川龍之介が英語教官時に使用した教科書等多くの展示物、書物がありました。



「海上自衛隊創設史料室」は、昭和27年4月26日、海上自衛隊の前身である海上警備隊が横須賀市田浦で創設され、戦後、自衛隊が初めて術科教育を行った地でもあるということで、設けられています。数多い展示を案内担当者からは、要領良く、持ちネタを交え説明して頂きました。今回の部隊研修は、見学の機会が少ない場所もあり、また、新しい発見もあり興味の尽きない研修でした。

研修終了後、敷地内の厚生センターにおいて、潜医隊司令、副長、2術校副校長はじめ今回の部隊研修で、御世話になった方々の御同席を得て、和気藹々とした雰囲気の中で懇親会が開催されました。中尾会長の挨拶、2術校副校長の乾杯の御発声で幕開け、会話に花が咲き、会は盛り上がりしました。有志会員を含む参加者は、大満足のうち、道家横須賀水交會副会長の中締めで平成28年度の部隊研修は、成功裏に幕を閉じました。

今回、部隊研修は、業務多忙にも関わらず潜医隊及び2術校以下関係各部の御配慮により、実現したものであり、横須賀水交會として海上自衛隊支援の決意を心新たにしたい有意義な一日でした。研修実現にご尽力頂いた関係各位に改めて深く感謝します。(石井 順 幹事 記)



3 平成29年横須賀防衛団体 賀詞交歓会

1月14日(土)午後、横須賀地区の防衛関係者にとっては新年の幕開け行事ともなる「平成29年横須賀防衛団体賀詞交歓会」が、横須賀商工会議所多目的大ホールにおいて開催されました。

本会は、防衛関連の9団体(※)が共催し、横須賀地区に在籍する陸・海・空自衛隊の部隊指揮官・先任伍長、横須賀市長等を招いて新春の賀詞を交歓するとともに、自衛隊を激励し、併せて、各団体、会員相互の親睦を図ることを目的に毎年実施しているものです。当日寒波の影響もあつたものの開催時は天気にも恵まれ、来賓を含め約300名の皆様に参加され、盛大に行われました。賀詞交歓会は、国歌斉唱、共催団体代表者の紹介、共催団体を代表して小山満之助横須賀防衛協会会長から、我が国を取り巻く安全保障環境は極めて厳しく、不透明感を増した中、我々防衛各団体は心を引き締め、我々の重い使命である防衛省、自衛隊、防大生の活躍を陰でしっかりと支えていくことを全うしてまいり

たいとの挨拶がありました。来賓を代表して道満誠一横須賀地方総監と吉田雄人横須賀市長の祝辞を頂いた後、来賓紹介、祝電披露、鏡開きの順で行われました。

来賓紹介では小泉進次郎衆議院議員、古屋範子衆議院議員及び三浦信祐参議院議員から力強いご挨拶を頂いた他、神奈川県議会議員・横須賀市議会議員・葉山町議会議員の皆様が多数参加されました。

鏡開きでは各界を代表する12名の皆様が2組に分かれ2つの四斗樽を参加者全員の「ヨイショ」の掛け声に合せ、見事に叩き割り、最高の盛り上がるの時を迎えました。



その後、國分良成防衛大学校校長の発声により乾杯が行われ、以後、懇談の時間となりました。会場内のあちらこちらで陸上・海上・航空自衛官、ご来賓、自衛隊OB、各団体会員等が和気藹々と懇談する姿が見受けられ、当初の目的である親睦を十分に図ることができました。

楽しい時はあっという間に過ぎ、最後に丸山潔航空自衛隊武山分屯地基地司令兼ねて第2高射隊隊長の方歳三唱により平成29年の賀詞交歓会はお開きとなりました。開催会場から出る頃、横須賀の街には雪が舞っていました。(石井 順 幹事 記)

※ 横須賀防衛協会、隊友会横須賀支部、横須賀水交会、横須賀曹友会、三笠保存会、自衛隊家族会三浦半島地区会、三浦半島募集相談員会、横須賀海交会及び桜遊会



4 掃海艦「あわじ」横須賀初入港歓迎行事

3月17日(木)、掃海艦「あわじ」(艦長 2等海佐 小林倫彦)が横須賀逸見岸壁に初入港しました。

同艦は平成25年度計画「あわじ」

型掃海艦の1番艦として、ジャパンマリンユナイテッド(株)横浜事業所鶴見工場で建造され、平成27年10月に進水、本年3月17日に就役、自衛艦旗授与され、掃海隊群第1掃海隊に編入された最新鋭艦です。あわじ型は、やえやま型の後継のFRP製掃海艦で、前型の木造のやえやま型の全長より1.8メートル長くなっています。基準排水量が3割低減し船体が大幅な耐用年数の延伸がなされています。また、航路に敷設された機雷を探知するためにサイドスキャン・ソナーを装備した水中調査用無人水中航走体が導入されています。

横須賀音楽隊が歓迎演奏をする中、山下万喜自衛艦隊司令官ほか各部隊指揮官、隊員、木下憲司横須賀市長代理並びに横須賀海上保安部長、一般市民、隊員家族、防衛諸団体の会員とともに、横須賀水交会も中尾会長他多くの会員が参加し、自衛艦旗

小旗、水交会旗を掲げて「あわじ」を盛大に出迎えました。

当日は、一時、小雨の心配もありましたが、道満誠一横須賀地方総監執行による歓迎行事は春の陽気の中つつがなく実施されました。

参加者が待ち受ける中、音楽隊の演奏に合わせ、乗組員が岸壁に整列、小林艦長の入港報告、来賓を代表し木下横須賀市長代理から「あわじ」の入港を心から歓迎するとともに初代及び1番艦乗組員として活躍を期待しているとの歓迎の言葉、その後艦長に対し曾我部長船自衛隊家族会三浦半島地区会会長から花束が贈呈され、行事は終了しました。最新鋭掃海艦「あわじ」の今後の活躍を祈念します。(石井 順 幹事 記)



5 横須賀教育隊修業式において、横須賀水交會から激励賞を授与

横須賀水交會では、平成28年12月19日(月)第125期初任海曹課程、平成29年2月17日(金)第366期練習員課程及び平成29年3月21日(火)第126期初任海曹課程の修業式において、成績優秀者3名(男性1名、女性2名)に対し、表彰状及び記念品を贈呈しました。

横須賀教育隊の初任海曹課程に対する表彰は、従前から横須賀防衛協会会長賞が授与されてきました。平成26年度からは、横須賀水交會からの激励賞も授与されることとなり、受賞者については、防衛協会会長賞との重複をさけること及び横須賀教育隊の初任海曹課程には全国から選ばれた女性も入校していることから、横須賀地方総監部管理部と調整した結果、防衛協会会長賞が男性(女性)の場合は、水交會激励賞は女性(男性)へ授与することになりました。ところが平成28年度から海曹予定者課程が新たに開始され、これまでの初任海曹課程としばらく混在することから、横須賀教育隊との調整により、防衛協会会長賞を海曹予定

者課程へ、水交會激励賞を初任海曹課程へ贈呈することになりました。

第125期・126期初任海曹課程ともに女性のみの学生であり、当日は、選考された各1名に中尾会長から贈呈されました。また、第366期練習員課程は、夏の期間に全国で採用された90名(男性のみ)が、平成28年10月4日自衛官候補生として入隊、横須賀教育隊での厳しい訓練等無事乗り越え、2月17日晴れの修業式となったものです。当日は、中尾会長から贈呈されました。

今回、以下の方々が表彰されました。

第125期初任海曹課程…3等海曹

よしだ かなえ

吉田 佳奈恵(音楽 東京音楽隊)

第366期練習員課程…2等海士

おおやち しょう

大谷地 翔(空武器 2空)

第126期初任海曹課程…3等海曹

かどやん ちゅう

角三 桃子(空電整 111空)

注…()は、職種、補職先の順

今回、表彰された皆様は、部隊において更なる研鑽を積まれ、海の防人として大きく成長されることを横

須賀水交會一同祈念しております。

(清水 利広 幹事記)



6 護衛艦「かが」引渡・自衛艦旗授与式参加

3月22日(水)、JMU(ジャパンマリンユナイテッド(株))横浜事業所磯子工場において、平成24年度計画ヘリコプター搭載護衛艦「かが」の引渡し式及び自衛艦旗授与式が行われました。

この護衛艦は、いずも型護衛艦の二番艦であり、全長248メートルは、旧海軍航空母艦「加賀」(改装後)とほぼ同じで1番艦の「いずも」と共に海上自衛隊の艦艇では、最大級のです。

式典は、天候にも恵まれ、防衛省及び建造所関係者等多くの参列を得て、10時30分から、厳粛かつ整齐と行われました。まず、建造所側から防衛省へ引渡しが行われ、「かが」マスト上のJMU社旗が降下されました。引き続き、小林鷹之防衛大臣政務官から1等海佐 遠藤昭彦艦長へ自衛艦旗が授与されました。東京音楽隊の奏でる「海のさきもり」、「軍艦行進曲」に合わせ、自衛艦旗を掲げた先任士官を先頭に乗組員が乗艦し、国歌「君が代」の演奏と共に自衛艦旗が艦尾旗竿に掲揚され、ここに自衛艦「かが」が誕生し、第4護衛隊群第4護衛隊に編入されました。

祝賀会は、三島慎次郎JMU代表取締役社長及び小林防衛大臣政務官からの御挨拶、記念品贈呈、祝電紹介、加藤耕司JMU顧問の乾杯の発声により祝宴が幕開き、多くの参加者が、引渡・自衛艦旗授与式を祝いました。

祝賀会終了後、出港式が行われ、建造所側から艦長及び海曹士代表に対し、花束贈呈、引き続き遠藤艦長から「国民の期待に叶う、世界最高の護衛艦に成長することをお約束し

ます。」と挨拶がありました。その後、横須賀水交會を含む多くの式典参加者、JMU社員に見送られ、配備先である母港呉に向かって威風堂々と出港した。

(石井 順 幹事 記)



7 横須賀水交會有志会員部隊研修

3月24日(金)、横須賀地方総監部地区において、横須賀水交會の有志会員を対象とした部隊研修が行われました。

横須賀水交會の現状は、有志会員の割合が約30パーセントに拡大し、そのうち約200名が過去5年間(平成23年〜27年)に入会しています。また、毎年実施している部隊研修は、個々の部隊あるいは観艦式事前回航等トピックス的なものであり、有志会員に海上自衛隊を普遍的に理

解していただく内容になっていないこととの認識から、横須賀水交會常務幹事会で有志会員研修の必要性が提起され、幹事会に報告、総会での承認を経て有志会員の皆様だけを対象にした横須賀水交會で初めての研修として計画されたものです。

今回の研修参加者は約90名で、その内有志会員は70名(年齢25歳〜81歳/女性13名)でした。

横須賀地方総監部大会議室において、今回の研修参加者総員に対し、道満誠一横須賀地方総監からユーモアを交えた御挨拶を頂きました。その後、2組各2個班に分かれ、次の3つの研修を入れ替えて実施しました。

座学として、佐々木管理部長から「横須賀地方隊の現状」として横須賀製鉄所から始まる沿革、海上自衛隊及び横須賀地方隊の組織・編成、主要任務、米海軍との関係等を、写真、図を多く使い懇切丁寧に大変わかりやすく説明して頂きました。

「港内クルーズ」は、交通艇を2隻用意して頂き、班ごと乗艇し、横須賀港内を各所の説明をして頂きながら一周しました。天気にも恵まれ、

途中入港艦艇もあり、年度末でありながら予想以上に艦艇が停泊しており、充実した研修となりました。



「護衛艦「かが」の研修」は、22日(水)に就役したばかりで、初度搭載の作業中にも関わらず実施して頂きました。本研修は、計画外であり、横須賀地方総監と護衛艦「かが」艦長の御厚意により実現した大変貴重な研修となりました。



研修終了後、ホテルハーバー横須賀において、御世話になった横須賀地方総監、管理部長、前任伍長の御同席を得て、和気藹々とした雰囲気の中で懇親会が開催されました。中尾会長の今回の感謝の意を込めた挨拶があり、横須賀地方総監からは、先日、首相官邸でワークライフバランス職場として表彰を受けたこと、海外派遣の状況、隊員募集等のお話しを含めた御挨拶を頂きました。土井横須賀水交會顧問の乾杯の発声で幕開け、会話が花が咲き、ホテルハーバーのペア宿泊券獲得のジャンケン大会等もあり、会は大いに盛り上がりました。



道家副会長の中締めで、初めて開催した有志会員部隊研修は、参加会員の満足を得て十分に目的を果たし成功裏に幕を閉じました。

今回の部隊研修は業務多忙に関わらず横須賀地方隊のみならず、護衛艦「かが」の御配慮により、実現したものであり、ご尽力頂いた関係各位に改めて深く感謝します。

(石井 順 幹事 記)

【トピックス】

1 靖国神社等月例参拝

2月16日(木) 恒例の靖国神社等月例参拝を実施しました。

水交會の月例参拝は、旧海軍及び海上自衛隊OBを主体に行われています。今回、旧海軍出身者は、兵学校73期の竹島栄吉氏以下、甲飛会、兵学校74期のご遺族10名、海自OBは、幹候4期の興世田勉氏以下クラス代表27名、その他有志1名、電子会1名及び水交會本部6名の合計40名でした。更に、横須賀水交會からは会長をはじめとした参加者に加え、合計60名の大人数の参拝となりました。

今回の特徴は、横須賀水交會から

7名の女性が参加したことです。

横須賀水交會の参加者については、ここ数年は、20名前後です。今後も積極的な参加を是非呼びかけて、参加者数を増やしていきたいものです。

当日は天気にも恵まれ、2月としては暖かい一日でした。靖国神社では、徳川康久宮司から、最近は春の日差しになり、桜の枝をよく見ると少し膨らんできており、開花予想は3月24日〜25日であること、本日の参拝は前日参拝された偕行社より3倍近い方に参列して頂いたという話から、最長老の方は海兵73期ということで皆様お元気に、多数の参拝ありがとうございますという挨拶がありました。



千鳥が淵では墓苑奉仕会から、近況報告がありました。正月三日は、多数の参拝の方が来られた事、29年度の業務計画の承認があり、参拝者を増やし、多くの方に戦没者の追悼をしていただき、日本国民の中に慰霊顕彰の意識高揚を図ることが目的の一つであること、護衛艦「たかなみ」がソロモン諸島の戦没者遺骨124柱を日本に送還し、厚生労働省が実施する戦没者遺骨収集事業に協力した事、平成22年に「硫黄島における遺骨収集のためのチーム」が発足されたことにより、遺骨収集が確実に進んできており、また、戦没者遺骨収集推進法が施行されたことにより加速することを期待している等でした。



奉仕会からの説明の後、各自、生花を手向けてお祈りをしました。

続いて向かったのは、防衛省慰霊碑です。ここでは、海幕総務課、わだつみ会会長に出迎えられ、幹候4期の興世田勉氏が代表して献花し、慰霊参拝を行いました。わだつみ会会長の挨拶において、潜水艦事故で亡くなられた隊員の葬送式で、お父様から、「平時になぜ息子は亡くならなければならぬのか、安全に万全を期して頂きたい。」との挨拶があったとの紹介がありました。



その後、直会参加者は、水交會本部へ移動し、20名の参加を得て、直会が行われました。今回初めて参加されました横須賀市役所に勤務され

る横山様から御挨拶を頂きました。その中で、海軍の資料をしっかりと整理して、将来の世代に伝えていく必要があると考えており、資料館の充実に尽力していきますとの言葉がありました。



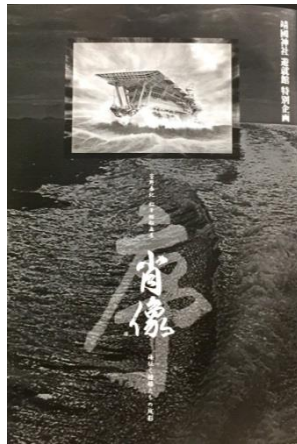
今回は、6月15日(木)です。月例参拝の参加及び初回参加者のお誘い、皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

靖国神社遊就館での特別企画のお知らせです。

横須賀水交會会員の菅野泰紀さんが遊就館内特設展示場で鉛筆艦船画展を開催します。期間は、平成29年6月1日(木)～8月31日(木)です。次回の月例参拝は、ちょうど

期間中ですので、早めに、靖国神社に行かれ、遊就館観覧後、月例参拝に参加されては、いかがでしょうか。

(石井 順 幹事 記)



2 第3回 横須賀水交會幹事会

3月8日(水)、横須賀地方総監部において平成28年度第3回幹事会が行われ、顧問以下約50名が参加しました。

幹事会に先立ち、講演会として、佃顧問を講師として招き「成年後見人制度」について、講演して頂きました。内容としては、「成年後見人とは」、「法定後見人制度」、「任意後見

人制度」についてであり、御自身の体験談を交えながら、パワーポイントを使用して、丁寧にわかりやすく説明をして頂きました。



幹事会の議題としては、まず「平成29年度(1/4・2/四半期)予定の確認」が行われました。

次の議題は、「実施行事の結果」であり、「29年横須賀地区合同賀詞交歓会」では、2つの事項については、業務幹事会で継続検討となりました。

「靖国神社月例参拝」については、担当役員から報告があり、次回以降も多くの参加を期待するものですが、海兵出身者の参加者数は、減少するも強い参加意欲があり、反面、幹候1期～10期の参加が無しという本部から指摘があったそうです。

次の議題は、「実施予定の行事」であり、始めて行う「有志会員部隊研修」、恒例の「馬門山海軍墓地墓前祭」、「海軍の碑」記念行事、そして「平成29年度総会基本計画」について担当役員から説明があり、検討調整が行われました。

「平成28年度活動報告・収支決算報告(案)」、「平成29年度活動計画・収支予算(案)」及び「平成29年度役員(案)」は、それぞれ担当役員から報告があり、内容について確認されました。



「ファミリーサポート活動状況」については、横須賀地方総監部が10月に緊急登庁訓練を実施し、「このはな園」での初の訓練があった事、2月27日、28日に横須賀地区全部隊を対象とした保育者養成講習が開催され、横須賀水交會からも参加した事、

昨年の状況からクリスマスコンサートでの家族説明会は、今年では中止とする事、29年度も7月に家族交流会を計画している事について担当役員から報告がありました。

いずれの案件についても、参会者から今後の活動も視野に入れた活発な意見が出され、熱の帯びた討論が実施されました。

幹事会終了後、中華料理店「朝廷」に場所を移し懇親会が開催されました。濱田幹事の司会の下、中尾会長との挨拶の後、松崎顧問の音頭で乾杯を行い、懇談に入りました。以降いつもの如く大いに盛り上がりました。内嶋会員の中締め乾杯をもって盛会の内に終了しました。

(石井 順 幹事 記)

【お知らせ】

1 ファミリーサポートセンター

会員の募集

横須賀水交會ではファミリーサポートセンターの会員を募集しております。詳細は横須賀水交會ホームページをご覧ください。趣旨に賛同される方は次の担当常務幹事のいずれかにご連絡ください。皆様の連絡を

お待ちしております。

加藤保幹事：090-2248-4829

高橋進幹事：080-5083-2933

2 幹事会終了後の懇親会に参加してみませんか！

横須賀水交會では9月、12月及び3月に幹事会を開催しており、終了後には自衛官等をお招きして懇親会(夕食会形式)を実施しております。

平成28年度からはこの懇親会に役員以外の会員の皆様にもご参加いただきたいと考えております。これまで会員同士の交流機会が総会や賀詞交歓会などに限られていたことを解消するための試みですので、ふるってご参加ください。

開催日や懇親会会場、費用等につきましては、開催日の概ね1か月前に横須賀水交會ホームページ(当面の活動予定欄)に掲載いたしますので、参加を希望される会員はお手数ですがお葉書にて事務局までお申し込みください。

なお会場準備の都合もありますので、申し込み及び変更につきましては開催日の10日前までに完了して頂くようお願いいたします。

葉書宛先：〒237-0046

横須賀市西逸見1

横須賀地方総監部付

横須賀水交會事務局宛

記載事項：参加される方の氏名、

会員番号、連絡先

叙勲受章者

次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略)

秋の叙勲

瑞宝中綬章 中尾 誠三

瑞宝小綬章 阿部 重康

五十嵐 昭夫

河本 洋一

佐藤 義明

訃報

昨年11月本紙発行以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

森田 衛 平成29年2月13日

(本多一雄 事務局長 記)

新(編入)会員

(28年10月～29年2月)

次の方々が横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。(敬称略)

三好 眞樹(有志) 大貝 憲三(有志)

松本光一郎(有志) 佐藤 喬(有志)

柳澤 一雄(有志) 北川 文之(82幹候)

遠山 高憲(有志)

川上 幸子(有志) 山岡 美穂(有志)

中 聖子(有志) 平川 眞治(83幹候)

山脇 修(84幹候) 米澤 志郎(95部内) 奥山 克也(32航学)

鈴木 賢司(08・1幹予) 菅野 泰紀(有志) 廣瀬 泰輔(104幹候)

花岡 亘(206横教) 平野 晃胤(83幹候) 塩川 恵梨香(有志)

阿部 善一郎(75幹候) 池田 輝幸(86幹候) 棚岡 充雄(85幹候)

清水 郁郎(有志) 佐々木 信吾(有志)

編入

上林 將人(有志) 大迫 義谷(幹候)

80) 道上 幸永(幹候 84)

金子 洋介(84幹候)

(桂 眞彦 幹事 記)

【編集後記】

毎年5月以降は横須賀水交會企画行事も多くなつてまいります。皆様の積極的なご参加と論文等記事の投稿をお待ちしています。

(編集担当 石井)